

(3) 図書・資料に関する修正案調整後の改訂素案

現行	修正案調整後の改訂素案
<p>(3) 図書・資料</p> <p>資料収集方針に基づいて郷土資料の収集を優先しながらも、各分野の資料も収集してきました。</p> <p>昭和56年度に出版点数の44%を占めていた購入冊数は、平成7年度頃から10%台前半を推移してきましたが、平成22年度から徐々に持ち直し、平成27年度の年間購入冊数13,189冊は、出版点数の17%まで持ち直しました。</p> <p>現在、約77万冊を所蔵していますが、新刊書の割合が低く、不足しがちです。</p> <p>市民一人当たりの年間貸出冊数は、年間購入冊数と強い相関関係にあるとされ、新刊書を増やすことで1人当たりの貸出冊数の増加を図りたいと考えています。</p> <p>現在、システム登録で運用している以外のものに古文書、郷土・行政資料、明治・大正・昭和初期資料、舟橋聖一記念文庫資料など約30万点を超える資料があり、別に冊子目録を作成して運用しています。</p> <p>その他に、図書蔵書数として数えていないものに新聞や雑誌・官報などもあります。</p>	<p>(3) 図書・資料</p> <p>昭和56年度に出版点数の44%を占めていた購入冊数は、平成7年度頃から10%台前半を推移してきましたが、平成22年度から徐々に持ち直し、令和3年度の年間購入冊数12,946冊は、出版点数の18%まで持ち直しました。</p> <p>現在、約68万冊を所蔵していますが、新刊書の割合が低く、不足しがちです。</p> <p>市民一人当たりの年間貸出冊数は、年間購入冊数と強い相関関係にあるとされ、新刊書を増やすことで一人当たりの貸出冊数の増加を図りたいと考えています。</p> <p>図書館蔵書数として数えていない資料には、新聞や雑誌・官報のほか、映像、電子、音声、展示資料などがあり、これら資料の保存管理の在り方について、検討する必要があります。</p> <p>(4) 歴史・郷土資料</p> <p>現在、システム登録で運用している以外のものに、古文書、郷土・行政資料、明治、大正、昭和初期資料、舟橋聖一記念文庫資料などの約30万点を超える歴史・郷土資料があり、別に冊子目録を作成して運用しています。</p> <p>これら歴史・郷土資料の多くは、彦根市立図書館の創設時に収集され、本館を特長付ける、大変、貴重な資料群であり、未来に確実に継承していく必要があります。</p> <p>そのためには、資料の保存に適した物理的な環境整備が喫緊の課題となっています。</p>